

## 平成28年度フェロー認定（10名）



氏名	胡 振江
認定時の所属	国立情報学研究所
抱負	
氏名	生駒 昌夫
認定時の所属	関西電力株式会社
抱負	電気学会での会長経験を活かして、各学協会の連携を深め、工学の発展に努めたい。 特に次の活動に力を入れていきたい。 ・工学の発展と国際化への貢献 ・科学技術を担う多様な人材の創出、育成、活躍の促進 ・社会への情報発信とプレゼンスの向上。
氏名	久保 司郎
認定時の所属	摂南大学
抱負	
氏名	佐土原 聡
認定時の所属	横浜国立大学
抱負	
氏名	田中 覚
認定時の所属	立命館大学
抱負	
氏名	土井 美和子
認定時の所属	情報通信研究機構
抱負	ヒューマンインタフェース分野の研究・開発および情報学分野での企業人および研究者としての経験と、官である情報通信研究機構での知見と、日本学術会議や内閣府、文科省などでの各種委員会での見聞を活かし、産官学の融合によるイノベーションに貢献したく存じます。
氏名	中尾 真一
認定時の所属	工学院大学
抱負	日本工学会の主催行事に参加するとともに、母体である化学工学会が日本工学会の活動に積極的に参加するよう働きかける。また、日本工学会から専門分野の情報や学会活動全般についての意見を求められた際には、積極的に協力する。

氏名	濱田 政則
認定時の所属	アジア防災センター
抱負	
氏名	山中 俊夫
認定時の所属	大阪大学
抱負	<p>各学会が抱える共通の問題意識を共有するとともに、我が国のみならず世界の工学の発展と人類の文明の発展のために学会として何をなすべきかについて考えるための機会を提供することが重要と考えます。そのためには、現在の活動以上に、情報共有のための基盤を整備することが必要です。新しい日本工学会ニュースの復刻、若い方々が交流できる場としてのブログの開設、学会横断的な特別テーマに関する委員会の設置など、新しいメディアや仕組み作りの試みも必要と思います。</p> <p>一方、現在すべての学会機能が東京に集中している現状を打開し、日本各地で有機的に各学会の会員同士が交流できる場を作ることも必要と考えます。会員学会の支部同志が連携できるよう、情報の共有から始める必要があると思います。</p> <p>フェローになった場合には、関西在住のフェローとして、日本工学会がリードして、関西での学際的交流の場を築くことを目標として、活動したいと考えています。</p>
氏名	渡邊 好夫
認定時の所属	株式会社リコー
抱負	<p>現在、可視化情報学会の会長として、可視化情報学の発展と普及に努めている。1981年に「流れの可視化学会」としてスタートした本学会も、今や自然科学分野に留まらず、人文科学、社会科学分野をも含む広範な「可視化」研究を担っている。「可視化情報学」は、様々なデータ・情報の採取、それらの画像化、そして、それに基づく認識・行動変容に至るプロセスをその構成要素とするが、これらの研究から得られた技術や方法論は、極めて普遍性の高いものである。特に、近年はビッグデータ時代と呼ばれるように膨大なデータが日々生み出されているが、適切な認識に至る計量方法と画像化技術がなければ、行動変容を引き起こすことはできない。この意味では、「可視化情報学」は、現代に最も求められている技術のひとつである。</p> <p>日本工学会が目指す、工学イノベーションによる社会発展を実現する上でも、この可視化情報学は非常に大きな役割を果たすことができると考える。研究者・技術者が、自らの研究開発を適切に進めるだけでなく、広く社会にその意義を発信するうえでも可視化技術は不可欠のものである。特に、防災・減災のための基盤整備等、社会の総意が必要な大規模システムに対して、その適切な技術構築と合意形成に本学会の可視化技術で貢献していきたい。また、ビッグデータの活用についても、関連学協会と協力して、行動変容に繋がる有用な知識抽出の研究等に貢献したいと考えている。</p> <p>最後に、これまで産業界で研究開発に従事してきた経験を生かし、産官学の連携に積極的にかかわって、社会が直面する多面的で複雑な課題解決に可視化技術で貢献していきたい。</p>